

八、[第3条第1項第6号](#)（前号までのほか、識別力のないもの）

前各号に掲げるもののほか、需要者が何人かの業務に係る商品又は役務であることを認識することができない商標

1. 地模様（例えば、模様のなものの連続反覆するもの）のみからなるものは、本号の規定に該当するものとする。
2. 標語（例えば、キャッチフレーズ）は、原則として、本号の規定に該当するものとする。
3. 商慣習上、例えば、「Net」、「Gross」等のように、その商品又は役務の数量等を表示する場合に用いられる文字等は、原則として、本号の規定に該当するものとする。
4. 現元号をあらわす「平成」の文字は、本号の規定に該当するものとする。
5. (1) 特定の役務について多数使用されている店名（[第3条第1項第4号](#)に該当するものを除く。）は、本号の規定に該当するものとする。

（該当する例）

アルコール飲料を主とする飲食物
の提供 茶、コーヒー……を
主とする飲食物の提供

→ 「愛」「純」「ゆき」「蘭」
「オリーブ」「フレンド」

- (2) (1)に該当する店名に「スナック」、「喫茶」等の業種をあらわす文字を付加結合したもの又は当該店名から業種をあらわす文字を除いたものも、原則として、本号の規定に該当するものとする。
6. 指定商品又は指定役務を取り扱う店舗又は事業所の形状にすぎないものと認められる立体商標（[第3条第1項第3号](#)に該当するものを除く。）は、原則として、本号の規定を適用するものとする。
7. 小売等役務に該当する役務において、商標がその取扱商品の産地、品質、原材料、効能、用途、数量、形状（包装の形状を含む。）、価格若しくは生産若

しくは使用の方法若しくは時期を表示するものと認められるときは、原則として、本号に該当するものとする。ただし、[第3条第1項第3号](#)に該当するものを除く。

(注)以下をクリックすると、商標審査便覧又は審判決要約集をご覧になれます。

○[商標審査便覧](#)

[41.100.02](#) 立体商標の識別力の審査に関する運用について

○[審判決要約集 \(第3条第1項第6号\)](#)